

特色ある科目（こども学科）

1. こども学

こども学Ⅰ

子どもの立場を重視することを大前提に、子どもを取り巻く現代の諸問題や諸事情を把握するとともに、子どもとともに生きる社会の在り方を探り、将来を見据えた教師としての自己、援助者としての自己を育むことを目指す。とくに、「子ども」という人間への理解を、自らが子どもだった時を振り返る活動を通して深め、追究してほしい。

こども学Ⅱ

こども学Ⅰでは、社会の中で子どもがどのような存在なのかを、子どもの視点で考察できる姿勢をもつことを目的とした。こども学Ⅱでは、現代社会で子どもがどのような位置に置かれているのか、それをふまえて子どもが育つ環境がどうかを子どもの視点で考察する。さらに、子どもの置かれている環境とその現状と課題を整理し、人間が成長していく過程と子どもの現実社会や現実の生活を意識して研究を進める姿勢を育てたい。こども学の専門科目へつなぐ基本学習です。

2. 子育て実践観察研究 a b

本学こども研究センターの活動事業に実習として参加し「こども学」を学ぶ上での課題解決に努める。4年次開講科目であるため、今まで学んできた専門科目の中での課題解決の場となるよう、主体的に毎時間の授業に望む目標を設定し参加する。

保育者になるための授業参加に限定するのではなく、親とのコミュニケーションを交わすことでコミュニケーション能力をつけるなど、社会人としての様々な能力を身につける。

小学校教員の養成にも、就学前の子どもや家庭の実態を知ることが大事であり、様々な面で、「こども学」の集大成となる。

3. 実習基礎セミナーⅠ・Ⅱ

幼稚園教諭・保育士・小学校教諭のいずれかの免許を取得しようとする1年次学生に対し、「資格取得にあたっての心構え」「実習に必要な知識と技能」を初歩的な段階から丁寧に指導し、学生それぞれが自身と向き合いつつ課題を達成していけるようにする。「附属幼稚園見学」「プレ実習」の実施と振り返りを通して、保育者・教育者となる自覚を高め、各自が予定している実習に備える。

4. こどもと表現（音楽）

子どもが表現する事の音楽活動を学ぶ。子どもの身体的活動の表現する事とは何か、からだの発達に応じて子ども達の表現できる音楽を理解していく。

表現する事は教育の現場で特に大切だと考えられており、表現方法はいくつかあるが、音楽は楽しく取り入れやすく発表する機会もこどもの現場で多く経験するので、子どもの年齢にあった音楽の表現方法を学び、なぜ大切なのか？何が大切なのか？実際の子ども達が音楽発表をしたものを使って学んでいく。

5. 大学で学ぶ／キャリアを考える

大学における受講科目の下支えとなる「読む」「話す」「書く」活動を磨きます。また、保育・教育をはじめとする社会の問題や課題について自主的に考え、論議し、問題意識や職業意識を高めていきます。扱うテーマは多様ですが、社会全体に目を向け、自分の生き方を問う学びに取り組むのが特徴です。

社会には、問いと答えを自ら生み出せる人材が必要です。自分の能力を他者のために生かすことができる人になるため、自分自身の生き方（キャリア）を築くための基礎的な学習を積み重ねます。